

From: Masana Nishikawa
Sent: Friday, October 3, 2014 4:17 AM
To: Yoko Ohkawa
Cc: Masana Nishikawa
Subject: Re: 千弘

大河 洋子様

本日は朝から外出し、夕方に戻ったところでメールを拝見しました。

何時かはこのような御報せに接するとは思ひ、心の準備をしなければと思いつつも、覚悟も心の整理もできないまま過し、今は何も考えられない状態です。

信じられない程に多くの事をして頂いたばかりで、何の成果も出せず申し訳なく思うばかりです。皆様には、さぞ心落しの事と存じます。お疲れも出ていらっしゃると思います、どうかご自愛下さい。

私達に何かできる事があれば、御報せ下さい。

取り急ぎ、

西川 正名・由美

On 2014/10/03, at 12:11, Yoko Ohkawa wrote:

> 正名様、由美様、

>

> 主人は、9月27日午前零時15分に永眠致しました。早くにお知らせをと、毎日のように気に掛けながら、矢張りゆっくりご説明をと思って、何方にもお知らせしないでいましたが、Steve DeanのFusion Societyから年会費の通知が来ましたもので、彼にメールで知らせましたところ、World fusion communityに知らせてもいいかと、返電が来ましたので、勿論有難く思います。と今日お返事致しました。

>

> 実は3週間前までは、そろそろ衰えかけてきたとは私も介護の人も思っていました。一週間前から急激に悪くなり、後一週間というので、花一家と太郎が翌日かけつけましたが、やっと、誰かが解る位で、翌日にはもう返答がない状態でした。彼等はその夜帰りました。それで、木曜日に理沙が来てくれて、翌日の金曜日の深夜息を引き取りました。私はまだまだこれから少なくとも6か月、多分2年位は大丈夫と思って居ましたので、何の心の準備も無く、呆然とするばかりでしたが、理沙が直ぐに医者に死亡の確認をしてもらい、葬儀屋に遺体を取りに来てもらって、火葬で灰にして海に埋葬の手つづきを全部してくれました。死亡証明書は普通は常識で2週間かかる筈のも昨日取れました、とか、Estate Lawyerとの交渉とか、一週間、週末を除いて毎

日、私を載せて走り回ってくれました。私も歳で、英語さえまなならず、本当に理沙の世話になってしまいました。一応落ち着いたので、今日木曜日の午後帰りました。午前中から株屋、弁護士、銀行とまわって、私は、飛行機に間に合うのかとひやひやでしたが、先刻、無事に帰宅したとの電話がありました。

>

> 一年ぶりで、今夜は、独りぼっちになりました。

>

> 葬儀は、理沙と、花の一家と、太郎と私だけで、船を借りて船の上で致します。全ては、10年前に Torkil Jensen が亡くなられた時と同じように、彼の、奥様、Kersten が 相談相手になってくれました。西川ご夫妻以外は余り人を寄せ付けない人でしたから、それが一番彼の希望の様に思います。

>

> 私は全て終わった後で、皆様に、彼が生前お世話掛けた御礼をかねてのお知らせをお送りさせていただくつもりです。がその時上手に、絶対に、絶対に何もして頂かないようお願い致します、という事をどういふふうに書けばいいかに四苦八苦しています。

>

> 吉川まさじさまも、80歳が衰えの始まりと嘆かれましたが、私も同感です。

>

> 正名様も、由美様も、それまでの青春をしっかりと楽しんでなさいますよう。でももうしっかりご存知の様に思っています。

>

> 洋子

>

>